

■第2回ワークショップ討議結果

1. 日時、場所

- ・日時：平成25年2月26日（火）10：00～11：40
- ・場所：生涯大学校

2. 参加者

- ・生涯大学院2年生19名
 - ：1班－11名
 - ：2班－8名

3. 討議内容

(1) 討議テーマ

- ・「生涯を通して市民が学び成果を活かせるまちづくりの取り組みについて」

(2) 討議内容（1班）

○現在の学習成果を活かした活動について

- ・現在の成田市で、学習成果を活かし活動が行われているか等について、以下のような見が出されました。

①実際に行っている活動

- ：生涯大学校で書道を専攻したのは、まず自分みがきから始めた。年に1度、近くの小学校に書初めの作品のお手伝いに行っている。現在は成田市書道協会の会員。
- ：合唱や踊りを老人施設で披露した。
- ：陶芸の同好会に入り技術をみがき、産業祭等に出展している。
- ：生涯大学校へは、友達作りが第一で入学した。高齢者に当てはまることとして、仕事を辞めると狭い世界で生きていることに気付き引きこもりになってしまう、大学校など人が集まる場に積極的に参加することを継続していくことが大事。

②これから学習成果を活かすための活動

- ：生涯大学校で学んだ「園芸」コースの作物を老人ホーム等へ届ける。
- ：高齢者の体験談を（わが人生の体験記）を小学校や中学校、高等学校の生徒学生向けに講演する

- ：高齢者が中心となって、学習活動を通して「言葉使い、礼儀作法他、学び心や言動の大切さなど」を教える

③その他

- ：成田市の図書館はかなり充実しているので、活動の拠点として活かさないか。
- ：明治大学市民講座など、講演会多数あるので、自分たちも参加することで、活動を活かすヒントが得られるのではないか。

○活動を拡大するための課題は何か

・これから新たに活動を展開するための課題について、以下のような意見が出されました。

①生涯大学の活動PR

- ：もっと生涯大学の活動状況のPRを広く知ってもらおう。
- ：合唱や演舞など、見に来る人たちは身内ばかりなので、もう少し多くの人に来てもらえるようPRしたほうが良い。
- ：「すえひろ」の配布をもっと多くする。

②生涯大学卒業後の活動も強化する

：生涯大学卒業後でも、誰かが主体となって、中心に行ってくれたらみんな参加しやすい

- ：生涯大学のOB（卒業生）が中心となってボランティア活動をする
- ：生涯大学を卒業した後でも、グループ活動や若い人たちとのかかわりを持って、活動を通して子供たちに礼儀を教える。
- ：年に1度の学園祭発表の合唱や演舞を1回で終わらせずに、各地域の老人ホームや介護施設訪問などに定着させたらどうか。

③その他

- ：生涯大学の入学希望者が多いので、定員を1クラス増やす。

○課題を解決する方法について

・課題を解決する方法の1つとなる「学園祭の取組み」がより広まっていくための方法について、以下のような意見が出されました。

①今後の取組と姿勢

- ：生涯大学での組長及び実行員に責任と権限をゆだねて、学園祭参加へのルール決めをして、賛同できる内容を共有する事によって皆同協力の姿勢で行っていく。
- ：行政には、学習成果の発表の場の提供やPRをしていただき、我々は、年齢を越えた仲間のあたたかい心と思いやりあふれる心を絆と和で協力して、学園祭が他地域でも広まっていくように活動をする。
- ：個人の普段の生きる姿勢としても、真実一路 やる気・元気・本気の人間関係や、健康面における体力づくりが必要不可欠である。

②その他

- ：子供に礼儀を教えるなら、見本となるように大人も挨拶する。
- ：自分たちでPR紙等を作っていく。

(3) 討議内容 (2 班)

○現在の学習成果を活かした活動について

- ・現在の成田市で、学習成果を活かし活動が行われているか等について、以下のような意見が出されました。

①訪問する活動が行われている

(小学校)

- ：昔の遊びを小学生に教える活動や音遊び、詩吟の発表
- ：地域の仲間とサークル活動を通して公民館、小中学校のトイレ清掃。

(高齢者施設)

- ：デイサービスでの外出介助。
- ：生涯大学院卒業時に学園祭で覚えたコーラス、踊りを老人施設等で行う。
- ：ADL体操、高齢者への体操指導。

②学習成果の展示が行われている

- ：専門課程の書道の成果を、新勝寺参道に展示し、「書道の街成田」に少しでも貢献できたかなと思います。
- ：年1回の発表の書道、油絵、陶芸の展示会の周知をもっと市民に広める。
- ：「すえひろ」の配布、配布先、枚数をもっと多くする。

③コミュニケーションのきっかけとなっている

- ：生涯大学院に入学したことがまちづくりの第一歩、卒業後にまちづくり活動をした
- い。
- ：生涯大学院に入ってから、自治会の会議等に積極的に参加するようになった。
- ：長期にわたり会社人間だったが定年を迎え、地域との関わり、交わりが出来ない時に、生涯大学院がそのきっかけとなり、ありがたい。

④その他

- ：太極拳・社交ダンス・ウォーキング・踊り・花の会（道路のはしに花を植える）
- ：近いうちに公民館が出来るので、私の出来る事をお手伝いしたい。
- ：グランドゴルフ・パークゴルフ・ツデーマーチ・勉強中。
- ：GG会員の健康推進と会員を増やす活動をしている。

○活動を拡大するための課題は何か

- ・活動を拡大するための課題について、以下のような意見が出されました。

①機会を拡大する

- ：ボランティア先（訪問先）の募集
- ：学園祭の発表内容を広める機会を増やす。
- ：計画性を高める。PLAN→DO→ACTION→CHECK

②活動をPRする

- : 成田国際文化会館や中央公民館での展示がありますが、見に来て下さるかたが限られているもう少しアピールしもっと多くの人に知ってもらいたい。
- : P R活動（書道・陶芸・油絵）
- : 展示活動において広くP Rする。（一部の人サークル会員のみ観に来ている）
- : 活動内容P R結果を知らせる。（新聞・T V）
- : 展示について、クラス全員に声掛け又はチラシ等で知らせる。知り合いにも声掛けする

③組織化する

- : N P Oの様な組織をつくる。
- : 仲間を増やす。
- : 訪問活動、活動するための組織化、生涯大学院生とO Bを組織化する。
- : 地区社協の組織を利用し（1人では活動しにくいので）、学校訪問やグランドゴルフ等でコミュニケーションを図りたい。

○課題を解決する方法について

- ・課題を解決する方法の1つとなる「学園祭の取組み」が1回限りとならないための方法について、以下のような意見が出されました。

①発表の場を工夫する

- : 生涯大学校を発表の場としては。
- : 学園祭のオープン化・市民の集まりやすい場所。
- : 新たな場所で発表する（中央公民館、小学校やデイサービス、スーパー等）
- : イベントで発表する（ニュータウン夏祭り、成田山参道、駅前）

②定期的な訪問活動に発展させる

- : 定期的に訪問。（小学校、デイサービス）卒業生も参加。
- : 学園祭の発表演目を1回限りにせず、演目を次の2区分（①幼児小、中学生向け／②高齢者施設向け）にし、計画的の実施する。

③発表する場を公募する

- : 町内会に声かける。（集まりやすい）
- : 発表して欲しい所、募集を募る。
- : 講演先の募集、市役所、関係課との調整